

令和2年度学校自己評価

鳥取県立智頭農林高等学校

<p>中長期ビジョン (学校ビジョン)</p>	<p>「一人ひとりの生徒を大切に」を教育の根幹におき、勤労と責任を重んじ、心身ともに健康で地域産業及び社会の発展に貢献できる人材を育てる。</p>	<p>本年度 重点目標</p>	<p>(1)専門教育の充実 ~各科の授業実践及び資格取得の取組をとおり、学びの質の向上を図る~ (2)学力向上 ~基礎学力の定着と授業力の向上~ (3)キャリア教育 ~進路指導の充実と職業観・勤労観の育成~ (4)こころの教育 ~規範意識の醸成、基本的な生活習慣の確立、家庭との連携~ ~自己理解・他者理解に基づいた人間関係づくりの支援、自己肯定感の育成、健やかな体づくり~ ~教育相談、特別支援教育及び人権教育のより一層の充実~ (5)地域連携の充実 ~地域の教育資源を活かし、本校の教育資源を地域に活かす、顔の見える地域連携、先輩から後輩へ、広報の拡大と充実~ (6)学校業務の改善 ~学校業務改善の取組みを進め、一人一人を大切にした教育の充実を図る~</p>
-----------------------------	---	---------------------	--

令和2年度当初				評価結果 (2)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1	専門教育の充実	<p>○スーパー農林水産業士には、H29年度は2名、H30年度は4名、R1年度は0名であった。</p> <p>○資格取得の受験率・合格率をあげるために、日々の学習習慣を定着させたり、受験案内や意欲の喚起を行ったりしたが、前年度に比べ、合格率が11%減少した。</p> <p>○地域の産業界や教育機関と多くの連携事業をしているが、基本技術の習得がおろそかになっていると指摘がある。</p>	<p>○「スーパー農林水産業士制度」や地域産業との連携を有効活用し、高度な知識と技術を身に付けて専門性を生かした進学・就職ができる。</p> <p>○学習規律のある授業態度を育成した上で、各科の専門性を深め、専門的な知識・技能を身に付けさせる。そして、地域の産業界や教育機関等との連携では、校内では習得できない知識技術を身に付ける。</p> <p>○生徒自らが将来の目標を定め、より意欲的に学習に取り組む、専門性を活かした資格取得に励んでいる。資格取得の合格率が前年度比10%以上向上している。</p>	<p>○日々の授業実践を大切にしながら、地域の産業界や教育機関との連携を深め、社会人講師等を積極的に活用し、地域の専門家から教わることで高度な技術を習得する。</p> <p>○実践的な学習を通して、知識や技術が習得できる授業を行う。また、他教科や地域産業等と連携し、より効果的に授業をすすめる。</p>	<p>○スーパー農林水産業士1名認定 受講者4名(次年度継続受講)に増加</p> <p>○地域との連携 H科:ちのりんショップ F科:格子 デュアルシステム(林業家庭教育) C科:藍染め を中心として感染症対策を取りながら充実した連携ができた</p> <p>○資格取得率・・・合格率(合否判明分のみ)57/98名 58% 77%→66%→58%(年度別割合) 受験率134/111名 120%(生徒数比)</p>	B	<p>○資格取得については各科の重点資格を決めて合格率をあげる。重点資格がアグリマスターや職業教育技術顕彰、スーパー農林水産業士につながる目標設定にすることが必要である。</p> <p>○地域連携、資格取得、授業の充実を運動させていく。まず授業を充実させ、資格取得や地域連携に資するようにする。</p>
2	学力向上	<p>○授業や教室環境のユニバーサルデザイン化が進められつつある。</p> <p>○「学び直し」に係る授業研究会をの実施(年2回)に加え、「授業を語る会」を年2回実施するなど職員全体が授業改善への意識が高い。</p> <p>○ICTタブレットの更新、活用環境の改善を行ったことで活用頻度が増加している。</p> <p>○本校生徒の基礎学力向上につながる手立てを検討し、実践に向けて取り組もうとしている。</p>	<p>○成功体験の積み重ねや学びあいのある授業、ICTを活用した授業、授業のユニバーサルデザイン化などの取組が組織的に行われており、生徒の基礎学力向上につながっている。</p> <p>○生徒の授業アンケートの結果、授業の理解度、分かりやすさや興味等が80%以上になっている。</p> <p>○「学びあひ」を取り入れた授業の実施頻度が、各教員年間5回以上になっている。</p>	<p>○授業のユニバーサル化について、教職員の共通理解を図る。</p> <p>○授業研究会、授業実践報告会や各種研修会への参加をとおして、教員相互の授業力向上を図る。</p> <p>○生徒各自の特性や対人関係に配慮した「学びあひ」をとおして、生徒の現状に即した学習方法を模索し授業の改革を進める。</p> <p>○学習意欲を高め、「学びあひ」の活動を促すためのICT機器の活用方法を検討する。</p> <p>○「授業での具体的な取組」を作成し、統一テーマを持って全職員で取り組む。</p>	<p>○HP活用研修会、教職員タブレット研修会、校内プロジェクター活用研修会実施により、ICTを活用した授業力向上の意識を高めている。一方で、講師を招いた授業研究会は新型コロナウイルスの影響もあり実施することができなかった。</p> <p>○(生徒アンケートより) 授業に真面目に取り組んでいると答える生徒の割合が91%、授業での振り返り学習(中学時の学習の復習)をとおして基礎学力が身についたと答える生徒が86%で、中間評価時点より5%上昇した。また授業評価アンケートの結果、授業の説明がわかりやすいと答える生徒は90%、学習する意欲を引き出してくれると答える生徒が88%であった。</p>	B	<p>○様々な状況に対応したICT機器の環境整備と活用方法について、学校全体で検討・目標を明確にし具体化する。</p>
3	キャリア教育	<p>○本校の教育内容と関連した企業等への就職者がH29年度は19%、H30年度は34%、R1年度は26%であった。</p> <p>○インターンシップにおいても科の学習内容と関連した企業を選択する生徒が増えた。</p> <p>○専門性を活かした地域連携が進みつつある現状であるが、生徒の進路先と必ずしも合致していない。</p>	<p>○専門的な技術を習得して、地域の担い手として地域社会に貢献しようとする意識を持っている。</p> <p>○上級学校への進学を目指し、意欲的に専門的な資質・能力を習得し、将来の地域を担うリーダー的存在を輩出している。</p> <p>○本校の教育内容と関連した企業等への就職者および専門性を活かした進学者の割合が30%または110名を超える。</p>	<p>○キャリア教育の年間計画に従い、キャリアパスポートを有効に活用しながら3年間で体系化したプログラムを実施する。</p> <p>○先進校視察、上級学校への見学研修および高大連携事業を活用し意欲を持たせ、進学への意識付けを行う。</p> <p>○生徒に社会情勢を意識させる取組みを進める。</p>	<p>○就職・進学率がほぼ100%に達している。おおむね生徒は自分の希望した進路先へ進むことが出来ている。</p> <p>○今年度から始まったキャリアパスポートの見直しが必要であることがわかった。</p> <p>○本校で学習した内容や専門性を活かした企業等へ就職または進学をした生徒の割合が50%を超えた。</p>	B	<p>○今後も生徒の希望を丁寧に聞き取り、進路実現を図る。</p> <p>○キャリアパスポートの内容を改善し、また、有効に活用できるように校内体制や年間スケジュールを見直す。</p>
4	こころの教育	<p>○指導対象の生徒数は減少しているが、指導内容は多様化しており、家庭や地域、外部機関と連携した指導体制を継続して行っている。</p> <p>○授業を含め学校内における規律が守れない等、規範意識の薄い生徒がいる。</p> <p>○生徒一人ひとりを大切にしながら指導を心がけることで生徒理解を深め、いじめや不登校等の未然防止に努めている。</p>	<p>○基本的な生活習慣が身につく、落ち着いた学校生活を送るとともに授業規律が確立されている。</p> <p>○校則を遵守するとともに、端正な服装・髪型、日頃のあいさつなど自らが行動できる。</p> <p>○社会規範や一般常識を理解し、道徳心を持って行動することができる。</p> <p>○特別指導を受けていない生徒の割合が90%以上、また、携帯マナー、交通安全に関してルールを遵守している生徒の割合は90%以上となっている。</p>	<p>○毎朝登校時の立ち番で服装・あいさつ指導を行う。また、PTAによるマナーアップの取組やあいさつ運動も実施する。</p> <p>○授業や集会での授業規律・集団規律を徹底する。</p> <p>○いじめアンケートやhyper-QUを計画的に実施し、生徒が抱えている問題の早期発見に努め、生徒理解を深めながら指導する。</p> <p>○各研修会を実施する。</p>	<p>○生徒の情報を各グループ及び職員間で連携し、生徒理解を深めながら指導に努める。</p> <p>○特別指導を受けていない生徒の割合は90%である。生徒アンケート集計による携帯マナー・交通安全に関してルールを遵守している生徒の割合は90%以上である。</p> <p>○カード指導の事業数は減少傾向にあるが、カード指導の累積による特別指導を受けている事業はある。</p>	B	<p>○生徒の些細な変化を見逃すことなく、情報を職員間及び保護者と共有して問題となる行動の早期予防・早期発見に努め組織的に対応していく。</p>
	生徒支援の充実	<p>○毎日の授業に規則正しく出席することができず、欠席・遅刻・早退を重ねてしまう生徒が少なからず存在する。</p> <p>○特別支援教育への理解は向上しているが、支援のためのスキル不足による困り感がある。</p> <p>○通級指導教室が関係職員と連携を取りながら円滑に実施されている。</p>	<p>○生徒一人ひとりが居心地のよいクラスの中で落ち着いて学習に取り組んでいる。</p> <p>○hyper-QU結果の「学級満足群」に入る生徒の割合が40%以上を維持する。</p> <p>○通級指導教室の運営がスムーズに進行し、支援の必要な生徒一人ひとりに継続した支援が行われている。</p>	<p>○担任・関係職員と保護者、SC・SSW、外部機関と連携を密にして、生徒の支援にあたる。</p> <p>○ソーシャルスキルトレーニングを活用して、生徒の自己理解・他者理解を進める。</p> <p>○通級指導の調査研究と平行し、対象生徒の個別対応を行う。</p> <p>○生徒支援のためのスキル向上に向けた教職員研修を行う。</p>	<p>○担任、学年団と緊密に連携を取りながら生徒支援にあたることができた。</p> <p>○第2回目のhyper-Q-U検査結果の「学級満足群」に入る生徒の割合は全体で38%であり、第1回目の53%を下回ったが、各種研修会で学んだことを生かし、職員全体で「気になる生徒」の情報共有を図ることができた。</p> <p>○通級指導教室を予定通り実施し、関係教員と連携を取りながら実施できた。また、充実した進路指導ができた。</p>	B	<p>○学年主任、担任を中心に連携しながら生徒の情報を共有する。そして、生徒自らが達成感を得られるよう、「当事者ニーズ」をしっかり把握し支援策を複数の目で検討していく。</p>
5	地域連携の充実	<p>○ちのりんショップは地域に定着しつつあり、地域の方からの応援を直に感じられる場となっている。</p> <p>○地元保育所との菜園活動や、福祉施設での実習など新たな分野での地域交流の場ができており、様々な人との関わりを学ぶことができる。</p> <p>○地域連携を教育内容に取り入れている専門教科は、科によるばらつきがあるものの、のべ23科目実施している。</p>	<p>○地域連携事業の活用により、生徒に自己有用感、達成感が生まれ、積極的に学校生活を送っている。</p> <p>○地域の方との交流をとおしてコミュニケーション能力や表現力が高まっている。</p> <p>○地域連携を教育内容に取り入れる専門科目が、各科で10科目(のべ30科目)以上になっている。</p>	<p>○定着しつつあるちのりんショップをさらに改善し、生徒のコミュニケーション能力や経営感覚を育成する。</p> <p>○地域の現状や文化を理解し、将来地域を担う人材を育成する目的の科目である「地域基礎」の一層の充実を図る。</p> <p>○地域の保育園・高齢者福祉施設との園芸交流、藍染交流を行い、相手を思いやる心やコミュニケーション能力を育てる。</p>	<p>○地域連携に関わる取り組み科目数は目標ののべ30科目には届いていない。しかし一つの連携内容の質が高くなると他の取り組みはできなくなるため、数だけでは判断し難い部分がある</p> <p>○地域基礎は感染対策をとりながらの活動であったが、当初の目的が達成されている。</p>	B	<p>○地域連携が大きな目標になって年数が経過したが、量ではなく質の検証が必要である。地域連携ありきではなく、授業充実のための地域連携にする必要がある。</p> <p>○地域基礎では、全科共通で履修する内容がどのように各科の専門性につながるか見直しと検証が必要と思われる</p>
	地域連携の充実	<p>○生徒数が少ない中、地域の木女会との技術交流、棚田の補修、格子の製作、藍染のれんの制作などの専門性の高い取組を継続して実施できている。</p> <p>○地域連携活動の評価アンケートは91%の回答が「よい活動である」との回答で満足度が高かった。</p> <p>○地域連携活動を発信して本校の特色や魅力をPRしているが、生徒募集での効果が十分とは言えない。</p> <p>○中学生の体験入学は、参加者が前年に比べ約1割減少した。</p>	<p>○農業高校ならではの「ものづくり」体験や「地域交流」体験によって、個々の教員の持つ専門技術や学校の教育力が地域の活性化に役立っている。</p> <p>○生徒や教職員の専門的知識や技術力を地域に発信している。</p> <p>○地元地域へ本校の取組みが浸透し評価され、地域からの評価アンケートの満足度が80%以上になっている。</p>	<p>○本校の持っている技術力を活用し、棚田の補修、格子の製作に取組み、伝統的な文化や技術を継承発展させる。</p> <p>○技能フェア、地域のイベント、学校祭を通して体験教室や展示即売を行い学校の専門的知識や技術を地域へ発信する。</p> <p>○各種事業で、地域の専門家を外務講師として招聘し、その技術力を本校教育へ活用するとともに、本校の教育内容の理解を促す。</p>	<p>○感染対策を取りながら、工夫して交流や行事が行えた。7年目を迎えた智頭町魅力アップ事業では、オープンした「ちづ図書館」に藍染の暖簾、格子を設置し、地域の方に教育活動の一面を見ていただいた。</p> <p>○地域からの評価や生徒の評価もおおむね目標を達成している。(地域アンケートより) 地域連携の取り組みが地域の活性化に役立っている-93% 地域アンケートの記述に、新入生の確保について声が複数寄せられ、本校への期待や応援を感した。</p>	C	<p>○生徒数や職員数が減少する中で本当に必要な行事や連携事業の精選をして行く。</p> <p>○次年度について、今年の経験を活かしながら、よりより地域連携ができるよう実施内容を検討する。</p> <p>○コロナ禍を踏まえた中学生へ発信について、SNSの活用など工夫が必要である。</p>
6	学校業務の改善	<p>○職員数の減少に伴い、分掌を再編しグループ制をとっているが、業務は年々増えており、グループ長の負担は大きくなっている。グループに入らない、あるいは複数グループに関わる業務も増えてきている。</p> <p>○農場会議を農場長担当にして、専門学科に関わるとりまとめや外部とのやりとりの窓口とし分担当を明確にした。本年度は、各グループ内の業務の見直しをさらに進めていく。</p>	<p>○グループ内で互いに業務を確認し、分担・協力するというグループ制の良さが生かされている。</p> <p>○時間外業務が、月45時間、年360時間を超える教職員がいない。</p>	<p>○グループの業務を年間計画に落とし込み、グループ内でスケジュールバランスをとりつつ、グループ業務の見直しを検討する。</p> <p>○教室室等の整理整頓を推進する。</p> <p>○電子データの共有とフォルダの見直しを検討する。</p> <p>○時間外業務の時間が多い職員へ、個別に縮減を呼びかける。</p>	<p>○時間外勤務については、月30時間を超える職員が徐々に少なくなってきた。(11月、12月は0名)</p> <p>○業務の効率化を図る目的で導入した電子掲示板の利用が定着しつつある。</p> <p>○グループ長会議を月1回定例で開催することで、業務の連携を図ることができた。</p>	B	<p>○グループ制で課題になっていることを一つひとつ改善していく。</p> <p>○職員の勤務状況を把握しながら、業務の効率化を促すことを適時に行う。</p>

評価基準 A:十分達成[100%] B:概ね達成[80%程度] C:変化の兆し[60%程度] D:まだ不十分[40%程度] E:目標・方策の見直し[30%以下]